

---

アスピラーR  
施工手順書

---

クリアライト工業株式会社

## 1. 施工手順の概要

施工手順は以下の通りです。

工程	概要
①予備テスト	塗膜の剥離可否、塗付量、放置時間、施工効率、塗膜・基材の状態、難易度等を確認するため、必ず予備テストを行ってください。なお、予備テストは必ず複数箇所で行ってください。
②養生	養生シート、ポリエチレンシート、ポリプロピレンシート、飛散防止ネット等を用いて養生します。 アスベストを含む場合は「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」に従ってください。
③攪拌	本製品を移しかえる場合、または水浮きが確認された場合はよく攪拌します。
④塗付	はけ、ローラー、リシガンまたはエアレスを使用して予備テストによって決定した塗付量を塗付します。 ※リシガンまたはエアレスを使用しても「送気マスク」は不要です。
⑤マスキング処理	塗付後、マスキングまたはポリエチレンシート等で塗付した剥離剤表面を覆います。
⑥放置	予備テストによって決定した時間放置します。概ね6～24時間程度になります。
⑦剥離	放置後、スクレーパー、ケレン棒、ワイヤーブラシ等で塗膜を剥離します。
⑧（水洗）	改修工事（塗替え塗装）を行う場合は必ず水洗いして、剥離剤を除去します。その後、再塗装を行います。再塗装を行う場合は塗料の施工仕様に従って作業してください。
⑨廃棄	剥離した塗膜、剥離剤等は産業廃棄物として処理します。なお、アスベスト含有塗材等の有害物質を含有している場合は特別管理産業廃棄物として処理してください。

次ページ以降に各工程を詳細に説明します。

## 1. 1 予備テスト

### 1. 1. 1 目的

塗膜の剥離可否、塗付量、放置時間、施工効率、塗膜・基材の状態、難易度等を確認するため**必ず**予備テストを行ってください。

### 1. 1. 2 塗付量と放置時間

塗付量と放置時間の目安は下記の表を参考にしてください。

塗材の種類	名称	塗付量 (kg/m <sup>2</sup> )	放置時間 (h)
一般建築用塗膜	合成樹脂調合ペイント (OP、SOP) 合成樹脂エマルジョンペイント (EP、AEP) 等	0.3 ~	6 ~ 24
(外装) 薄 (膜) 塗材 E	樹脂リシン、アクリルリシン、吹付リシン	0.3 ~	6 ~ 24
複層塗材 E	(アクリル系) 吹付けタイル、アクリルタイル	0.5 ~	12 ~ 24
防水形外装薄塗材 E	単層弾性	0.5 ~	12 ~ 24
防水形複層塗材 E	複層弾性、弾性タイル	0.7 ~	12 ~ 24
複層塗材 RE	水系エポキシタイル	1.0 ~	12 ~ 24
(外装) 厚塗材 E	樹脂スタッコ、アクリルスタッコ	1.0 ~	18 ~ 24

注 1) 上記塗付量および放置時間はあくまで目安です。塗膜の膜厚、劣化状態、気象条件等により異なりますので、必ずテスト施工を行った上で塗付量および放置時間を決定してください。

注 2) 無機系の塗材 (セメント系等) は剥離することができません。

### 1. 1. 3 塗付面積と塗付量

塗付面積と塗付量の関係は下記の表を参考にしてください。

・ 0.5 kg/m<sup>2</sup> (塗付厚 : 0.5mm) 塗付する場合

塗付面積	塗付量
1 m × 1 m	500 g (500 mL)
50 cm × 50 cm	125 g (125 mL)
30 cm × 30 cm	45 g (45 mL)

・ 1 kg/m<sup>2</sup> (塗付厚 : 1mm) 塗付する場合

塗付面積	塗付量
1 m × 1 m	1 kg (1 L)
50 cm × 50 cm	250 g (250 mL)
30 cm × 30 cm	90 g (90 mL)

### 1. 1. 4 予備テストする上での注意事項

- (1) 本施工時と同じ手順で行ってください。
- (2) 必ず複数箇所で行ってください。例として、日の当たる (当たらない) 場所、雨風が当たる (当たらない) 場所が挙げられます。
- (3) 予備テストは可能であれば異なる塗付量で検討してください。

## 1. 2 養生

養生シート、ポリエチレンシート、ポリプロピレンシート、飛散防止ネット等を用いて養生します。窓枠（サッシ）・鉄骨等塗装がされている部分で、剥離作業を行わないところは養生を行ってください。剥離剤は塗膜の他にゴムやプラスチック類も軟化させますので気を付けてください。

※アスベストを含む場合は「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」に従ってください。

## 1. 3 攪拌

本製品を移しかえる場合、または水浮きが確認された場合はよく攪拌してください。

## 1. 4 塗付

はけ、ローラー、リシンガン（口径6mm前後）またはエアレス（口径0.45～0.91mm）を使用して予備テストによって決定した塗付量を塗付してください。なお、塗付量は、施工面積と使用した缶数で確認してください。

※リシンガンまたはエアレスを使用しても「送気マスク」は不要です（ベンジルアルコール非含有のため）。



はけ塗付



ローラー塗付



エアレス塗付

## 1. 5 マスカー処理

塗付後、蒸発・臭いの防止及び安全性・浸透性を確保するために、マスカーまたはポリエチレンシート等で剥離剤表面を覆ってください。覆った後、剥離剤と密着するように押さえつけてください。



マスカー処理



押さえつけ

## 1. 6 放置

施工時の気温等によって多少放置時間は変わります。予備テストによって決定した時間放置してください。概ね6～24時間程度になります。

※高温下（30℃以上）では放置時間が短くなり、低温下（5℃以下）では剥離剤の浸透が遅く剥離効果が落ちる場合があります。塗付量及び放置時間を調整してください。

※5℃や-10℃の低温下でも剥離効果は得られますが、気温が下がるほど塗付量は多く、また放置時間は長くする必要があります。

一例として、「20℃、0.5 kg/m<sup>2</sup>、1日放置」と同程度の剥離効果を得ようとした場合、外気温5℃では「0.5 kg/m<sup>2</sup>で3日放置」または「1 kg/m<sup>2</sup>で2日以上放置」する必要があり、外気温-10℃では「1 kg/m<sup>2</sup>で3日以上放置」する必要がありました。

## 1. 7 剥離

放置後、塗膜が柔らかくなっていることを確認したら、スクレーパー、ケレン棒、ワイヤーブラシ等で塗膜の剥離を行ってください。転倒防止のため、足元に落ちた塗膜、剥離剤を踏まないように気を付けてください。ケレンしにくい場所はワイヤーブラシ等を用いて除去してください。剥離除去できなかった箇所がある場合は再塗付を行って再度、剥離除去をしてください。除去した塗膜・剥離剤は、ビニール袋等に集めてください。



スクレーパーで剥離



ワイヤーブラシで剥離

改修工事の場合は 1. 8へ

解体工事の場合は 1. 9へ

## 1. 8 水洗

改修工事（塗替え塗装）を行う場合は必ず水洗いして、剥離剤を除去します。ぬめりが無くなるまで十分に水洗いし、剥離剤が残らないようにしてください。

その後、再塗装を行います。再塗装を行う場合は塗料の施工仕様に従って作業してください。

水洗いが不十分な場合、再塗装時に影響を与えますので注意してください。

※アスベスト含有塗膜を洗った水は回収して適正に処理してください。

## 1. 9 産廃処理

剥離した塗膜、剥離剤等は産業廃棄物として処理してください。なお、アスベスト含有塗材等の有害物質を含有している場合は特別管理産業廃棄物として処理してください。

## 2. 施工に関する注意・確認事項

- ・作業者の安全確保のため保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を**必ず**着用してください。
- ・本製品（剥離剤）の塗付を行う作業者は、防毒マスク（有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品）を**必ず**着用してください。
- ・本製品（剥離剤）の塗付後に、塗膜をかき落とす作業を行う場合は、防じん機能を有する防毒マスク（有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品）を**必ず**着用してください。
- ・なお、防毒マスクは吸収缶が破過すると除毒能力がなくなるため、使用時間を厳格に管理し、定期的に吸収缶を交換してください。
- ・エアレスで吹付け塗付する場合は、剥離剤がミスト状になり目に入る可能性が高いため、**必ず**保護眼鏡を着用してください。
- ・室内や密閉空間で作業する場合は、十分に換気を行ってください。
- ・低温下では剥離剤の浸透が遅く剥離効果が落ちる場合があります。塗付量及び放置時間を調整してください。
- ・強風下や炎天下では、剥離剤の蒸発が早く剥離効果が弱まる場合があります。剥離剤塗付後の表面にマスカ一等をし、さらに足場にシート等を付ける等して、風、日光を遮断して作業を行ってください。

- ・雨天、降雪などの悪天候の場合は、水によって剥離剤の浸透が阻害されることがあります。塗膜や剥離剤に水が付着しないよう留意して養生・塗付を行ってください。
- ・無機系の塗材（セメント系等）は剥離することができません。
- ・シリコン系およびフッ素系の塗膜は剥離できない場合があります。
- ・塗付量が多すぎると塗膜が溶解し剥離しづらくなる場合があります。その場合は、塗付量を減らしてください。

以上